報道機関　各位

記者発表資料
令和５年１月２５日（水）
問い合わせ先：観光国際課
課長：渋谷
問合せ先：さいたま観光国際協会
国際交流センター担当：林
電話：８１３－８５００

「わくわくグローバルフェスタ２０２３」
出逢い、つながり、未来へ
～共に未来を創る仲間として～
を開催します
（申込受付中）

さいたま市国際ＮＧＯネットワークが、市民の学びと交流の場となる「わくわくグローバルフェスタ２０２３」を開催します。

１　目的
SDGs の理念の基、グローバルシチズンとして、平和で多文化共生社会の実現にいかに貢献できるか考える機会を提供し、さらに継続的な市民の自発的活動を促進する。

２　内容
（１）講演（会場参加またはオンライン）
テーマ：平和な世界を求めて～　「テレジンの子どもたち」を語りつぐ
講　師：野村　路子（のむら　みちこ）【ノンフィクション作家 作詞家】
（２）展示（テレジンの子どもたちの絵を会場に展示）

３　日時
令和５年２月１１日（土・祝）　１３時３０分から１６時まで（１３時開場）

４　場所
会　場　参　加：浦和コミュニティセンター　第１５集会室
（ＪＲ浦和駅東口　コムナーレ９階）
オンライン参加：Ｚｏｏｍ

５　主催
さいたま市国際ＮＧＯネットワーク

６　申込方法

・申込フォームから申込：https://forms.gle/EECd4F9dhMemV5Jv6

・令和５年２月３日（金）まで申込受付中

・会場参加のみ先着６０名。参加費無料。

※フォームからの申し込みができない方は、①氏名 ②連絡先（電話番号）③E-mail ④ＷＥＢ又は会場を選択 ⑤英語通訳機の使用希望の有無（会場参加の方のみ）をご記入の上、メール iec@stib.jp までお送りください。

７　その他

・さいたま市国際ＮＧＯネットワークについて

さいたま市民と外国人市民の交流を通して相互の理解を深め、ともに市民として平和・共存の共生社会の実現に貢献することを目的とする団体のネットワークです。主な事業として、「わくわくグローバルフェスタ」を毎年開催しております。

※イベントの詳細は別添チラシをご確認ください。

わくわくグローバルフェスタ2023

出逢い、つながり、未来へ
～共に未来を創る仲間として～

参加無料

～あなたができるSDGsを探してみよう～

オンラインまたは 会場参加のハイブリッド方式

日時

2023年2月11日（土）
13:30～16:00（13:00入室）

会場参加 先着６０名

平和な世界を求めて～ 「テレジンの子どもたち」を語りつぐ

講師：野村路子　ノンフィクション作家　作詞家

1937年東京生まれ。59年早稲田大学第一文学部仏科卒業後、新聞・雑誌に、ルポルタージュ、エッセイなどを執筆していたが、89年、旅先のプラハで、アウシュヴィッツで殺された子どもたちが、テレジン収容所にいた時に描いた絵と出会い、日本で紹介したいとチェコ国立ユダヤ博物館と交渉、貸し出しを受け、91年から『テレジン収容所の幼い画家たち展』開催。

以来30年にわたり継続、その間に、数少ない生還者へのインタビューを重ね、『15000人のアンネ・フランク』、『テレジンの小さな画家たち』（産経児童出版文化賞大賞受賞）『子どもたちのアウシュヴィッツ』『フリードル先生とテレジンの子どもたち』『写真記録アウシュヴィッツ（全6巻）』など著書多数。

オンライン

オンライン会議ツールZOOMを使用します。
お申し込みフォーム↓こちらにご記入してください。

https://forms.gle/EECd4F9dhMemV5Jv6

フォームからの申し込みができない方は、
①氏名　②連絡先（電話番号）　③E-mail　④Web 又は 会場を選択
⑤英語通訳機の使用希望の有無（会場参加の方のみ）
をご記入の上メール　iec@stib.jp　までお送り下さい。

2月3日（金）までにお申し込み下さい

（公社）さいたま観光国際協会　国際交流センター
☎:048-813-8500　FAX: 048-887-1505　Mail:iec@stib.jp

お申し込みQRコード

会場参加

浦和コミュニティセンター　第15集会室
（JR浦和駅東口駅前浦和パルコ上 コムナーレ9階）

マスク着用
受付にて手指アルコール除菌と検温を実施します

主催　：さいたま市国際NGOネットワーク
共催　：さいたま市、（公社）さいたま観光国際協会
後援　：さいたま市教育委員会、（公財）埼玉県国際交流協会、（公財）埼玉YMCA、埼玉県ユニセフ協会

● テレジン収容所

チェコスロバキアの首都、プラハから北へ60キロほど離れた人口6000人ほどの小さな街、テレジンは、1941年から1945年まで収容所の街になり、ドイツ語でテレージエンシュタットと呼ばれていました。テレジンに送られてきたユダヤ人は、およそ14万4000人で、その4分の1ちかい3万3000人が病気、飢え、過労、そしてドイツ兵による暴行や拷問や刑罰によりテレジンで亡くなり、8万8000人がアウシュヴィッツなどの絶滅収容所に送られ、そこのガス室で殺されました。ここからアウシュヴィッツへ送られ、幸いにも生き残った人の「アウシュヴィッツが地獄なら、テレジンは地獄の控え室だった」という言葉がここテレジンをよく表わしています。

● テレジン収容所の子どもたち

このテレジンに、1万5000人の子どもたちがいました。子どもたちは、親から離され、＜子どもの家＞と呼ばれる建物のなかで生活していました。飢え、寒さ、親と会えない淋しさ、つらい労働、死の不安・・・。子どもたちは、笑顔を失い、ただドイツ兵に怒られないようにひっそりと暮らしていました。

ルース・ハイノヴァー　1934.2.19生まれ
1944.10.23　アウシュヴィッツへ

● 子どもたちに生きる喜びを教えた フィリードル・ディッカー先生

「子どもたちを、このままにしておいてはいけない」
「子どもは、いつでも目を輝かせて、生きていることを喜ばなくては…」

大人たちは話し合い、子どもたちの学校を開こうと決まりました。それは容易なことではありません。ドイツ兵との交渉の結果、わずかな時間だけ大人が〈子どもの家〉を訪問することが許され、女性画家のフリードル・ディッカーが子どもたちに絵を描くことを教えました。

以上、「テレジンを語りつぐ会」ホームページから引用

(写真提供は野村路子氏)

トマス・カウデルス　1934.6.9生まれ
1943.12.15　アウシュヴィッツへ

● テレジンを語りつぐ

1945年、収容所が開放されたとき、4,000枚の絵と数十枚の原稿が発見されました。その絵と出会った野村路子さんは、30年以上にわたり、テレジンの子どもたちの絵を通して、平和の尊さを訴えています。

ドリス・ヴァイゼロヴァー　1932.5.17生まれ
1944.10.4　アウシュヴィッツへ

《さいたま市国際NGOネットワーク》

さいたま市国際NGOネットワークは、さいたま市民と多国籍市民の交流を通して相互の理解を深め、ともに市民として平和・共存の多文化共生社会の実現に貢献することを目的とする団体のネットワークです。

主な事業として、市民の学びと交流の場となる「わくわくグローバルフェスタ」を毎年開催しております。